

平成19年度 大阪湾再生行動計画の実施状況について



元気UP! 関西

平成20年3月19日
大阪湾再生推進会議

目 次

【大阪湾再生行動計画について】	1
1. 行政機関による「大阪湾再生」の目標達成のための積極的な取り組み（平成19年度の主な取り組みの概要）	4
1-1 陸域負荷削減施策の推進	4
1-1-1 陸域負荷の削減に向けた施策	4
(1) 水質総量規制制度に基づく総量削減	4
(2) 関係各機関の連携による総合的な負荷削減対策の実施	5
(3) 下水処理場からの排出負荷量の削減	6
(4) 河川浄化	7
(5) 森林整備	8
1-1-2 陸域負荷削減以外の施策	9
(1) 河川清掃活動	9
1-2 海域における環境改善対策の推進	10
1-2-1 多様な生物の生息・生育	10
(1) 藻場・干潟等の創出	10
(2) 護岸への生物生息機能の付加（実証実験）	11
1-2-2 親水性の向上	12
(1) 臨海部における親水拠点整備	12
(2) 親水活動の実施	13
1-2-3 浮遊・漂着・海底ごみの削減	14
(1) ごみ回収（漂着、浮遊、海底ごみ）	14
(2) 浮遊ごみ流出機構の把握	15
1-3 大阪湾再生のためのモニタリング	16
1-3-1 環境監視のためのモニタリング	16
(1) 効果的・効率的なモニタリングの実施	16
(2) モニタリング内容の充実化	17
1-3-2 市民参加のためのモニタリング	18
(1) 市民参加によるモニタリングの実施	18
1-3-3 情報の共有化及び発信	19
(1) 大阪湾環境データベース	19
1-4 アピールポイントにおける施策の推進	20
(1) 尼崎臨海部、堺浜周辺における集中的・先駆的な取り組み	20
2. 目標の達成状況	22
(1) 海域生物の生息に重要な場を再生する	22
(2) 人々が快適に触れ合える場を再生する	24
(3) 臨海部での人々の憩いの場を確保する	25
(4) ごみのない美しい海岸線・海域を確保する	26

3. 市民参画による「大阪湾再生」の元気な取り組み（平成 19 年度の主な取り組み事例）	27
.....	27
3-1 市民参画による各種の取り組み	27
(1) 兵庫運河 真珠貝プロジェクト	27
(2) 「大阪湾（生き物）一斉調査」プログラムの試行	28
(3) 大阪湾内の海洋生物調査	29
(4) 市民、小学生による水質調査の実施（夏休みジュニア水質調査の日）	30
(5) 舞洲における環境学習と魚つりの社会実験	31
(6) 海辺の漂着物調査	32
(7) “クリーンアップ大作戦” スペシャル in 舞洲	32
(8) 市民主導による御前浜での浜辺を美しくする取り組みの実施	33
(9) 南港生き物育て隊アオサ取り	34
(10) エコアートフェスタ大阪	35
(11) 阪南港ちきりアイランド（阪南2区）人工干潟とクリーンセンター見学	36
(12) 神戸空港島でのウミガメ保護と環境学習（ウミガメ・エコツーリズム）	37
(13) 尼崎運河博覧会（うんぱく）	38
3-2 大阪湾再生に関するシンポジウム等の実施	39
(1) 大阪湾再生シンポジウム	39
(2) 「大阪湾満足度評価」アンケート調査	40
4. 大阪湾再生に関するマスコミ報道状況（平成 19 年 4 月～平成 20 年 2 月）	41
(1) テレビ放映等	41
(2) 新聞等	41

【大阪湾再生行動計画について】

1) 経緯

- 平成 13 年 12 月：都市再生プロジェクトに「海の再生」を位置付け（都市再生プロジェクト（三次決定））
- 平成 15 年 6 月 26 日：都市再生本部会合において「大阪湾再生」に取り組むことに
- 平成 15 年 7 月 28 日：関係省庁及び関係地方公共団体等^{注)}が「大阪湾再生推進会議」を設置
- 平成 16 年 3 月 26 日：「大阪湾再生行動計画」を策定
- 平成 16 年度以降、毎年の実施状況についてフォローアップを実施
- 平成 19 年度：行動計画策定後 3 か年の取組状況、目標の達成状況について「中間評価」を実施

2) 具体的な内容

- 大阪湾の水環境の現状を踏まえて、
 - ・大阪湾再生に向けての湾全体の目標の設定
 - ・湾奥部を中心とした重点エリア・アピールポイント等の設定
 - ・目標達成のための陸域負荷削減、海域における環境改善対策及びモニタリング（監視）の実施
- などの関連施策及びその計画的な推進について明らかにしたもの

3) 目標

～ 目 標 ～

森・川・海のネットワークを通じて、
美しく親しみやすい豊かな「魚庭（なにわ）の海」を回復し、
京阪神都市圏として市民が誇りうる「大阪湾」を創出する



【大阪湾再生のイメージ】

^{注)} 大阪湾再生推進会議：地域活性化統合本部事務局（旧：内閣官房都市再生本部事務局）、国土交通省、農林水産省、経済産業省、環境省、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、京都市、大阪市、堺市、神戸市、(財)大阪湾ベイエリア開発推進機構で構成（注：経済産業省は平成 17 年 3 月、堺市は平成 18 年 3 月から参画）

4) 具体的な目標及び指標

大阪湾の目標の達成状況を判断するため、大阪湾全体に共通する具体的な目標及び指標として、「多様な生物の生息・生育」と「人と海との関わり」の2つの観点から、それぞれに望ましい「質の改善」及び「場の整備」として以下のとおり設定した。

区 分		具体的な目標	指 標
多様な生物の生息・生育	質の改善	①年間を通して底生生物が生息できる水質レベルを確保する	底層 DO ・5mg/L 以上（当面は 3mg/L 以上）
	場の整備	②海域生物の生息に重要な場を再生する	干潟・藻場・浅場等の面積 砂浜・磯浜等の延長
人と海との関わり	質の改善	③人々の親水活動に適した水質レベルを確保する	表層 COD ・散策、展望：5mg/L 以下 ・潮干狩り：3mg/L 以下 ・海水浴：2mg/L 以下 ・ダイビング：1mg/L 以下
	場の整備	④人々が快適に海にふれ合える場を再生する	自然的な海岸線延長
		⑤臨海部での人々の憩いの場を確保する	臨海部における海に面した緑地の面積
		⑥ごみのない美しい海岸線・海域を確保する	浮遊ごみ、漂着ごみ、海底ごみ

5) 計画期間

- 平成 16 年度から 10 年間

【本資料の構成】

目次構成		頁	大阪湾再生行動計画の具体的な目標との関連						【参考】 アピールポイントにおける改善後のイメージ		
			多様な生物の生息・生育		人と海との関わり						
			質の改善	場の整備	質の改善	場の整備					
			①年間を通して底生生物が生息できる水質レベルを確保する	②海域生物の生息に重要な場を再生する	③人々の親水活動に適した水質レベルを確保する	④人々が快適に海にふれ合える場を再生する	⑤臨海部での人々の憩いの場を確保する	⑥ごみのない美しい海岸線・海域を確保する			
1. 行政機関による「大阪湾再生」の目標達成のための積極的な取り組み(平成19年度の主な取り組みの概要)	1-1 陸域負荷削減施策の推進 【行動計画 p12～19】	1-1-1 陸域負荷の削減に向けた施策 (1)水質総量規制制度に基づく総量削減 (2)関係各機関の連携による総合的な負荷削減対策の実施 (3)下水処理場からの排出負荷量の削減 (4)河川浄化 (5)森林整備	4～8	○		○					
		1-1-2 陸域負荷削減以外の施策 (1)河川清掃活動	9						○		
	1-2 海域における環境改善対策の推進 【行動計画 p20～25】	1-2-1 多様な生物の生息・生育 (1)藻場・干潟等の創出 (2)護岸への生物生息機能の付加(実証実験)	10～11		○						
		1-2-2 親水性の向上 (1)臨海部における親水拠点整備 (2)親水活動の実施	12～13				○	○			
		1-2-3 浮遊・漂着・海底ごみの削減 (1)ごみ回収(漂着、浮遊、海底ごみ) (2)浮遊ごみ流出機構の把握	14～15							○	
	1-3 大阪湾再生のためのモニタリング 【行動計画 p25～29】	1-3-1 環境監視のためのモニタリング	16～19	○	○	○	○	○	○	○	○
1-3-2 市民参加のためのモニタリング											
1-3-3 情報の共有化及び発信											
1-4 アピールポイントにおける施策の推進 【行動計画 p30～42】	(1)尼崎臨海部、堺浜周辺における集中的・先駆的な取り組み	20～21								○	
2. 目標の達成状況			22～24								
3. 市民参画による「大阪湾再生」の元気な取り組み(平成19年度の主な取り組み事例)	3-1 市民参画による各種の取り組み		26～33	○	○	○	○	○	○	○	○
	3-2 大阪湾再生に関するシンポジウム等の実施		34～35								
4. 大阪湾再生に関するマスコミ報道状況(平成19年4月～平成20年3月)			36～37								

1. 行政機関による「大阪湾再生」の目標達成のための積極的な取り組み（平成19年度の主な取り組みの概要）

1-1 陸域負荷削減施策の推進

1-1-1 陸域負荷の削減に向けた施策

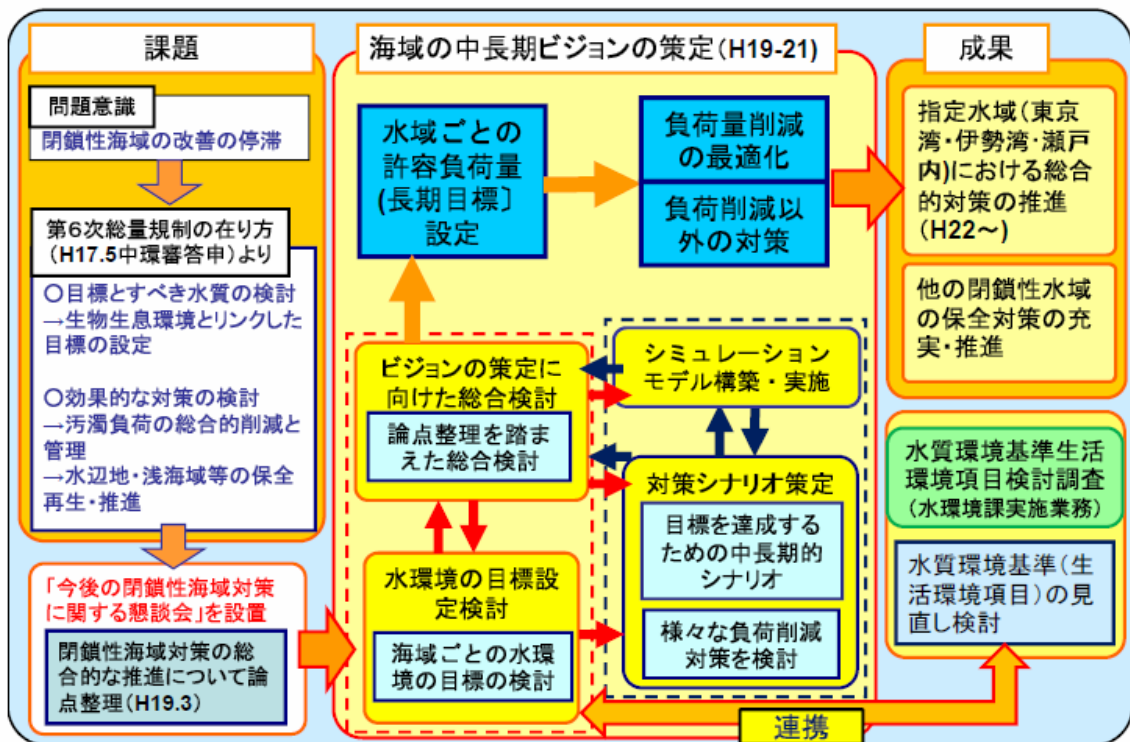
(1) 水質総量規制制度に基づく総量削減

- 平成21年度を目標年度とする総量削減基本方針に基づく各府県の総量削減計画、総量規制基準の策定、大阪湾の目指すべき水環境の目標とその達成に向けたロードマップを明らかとする中長期ビジョンの策定

行動計画においては、計画期間内に、大阪湾における早急な水質改善のため、水質総量規制制度に基づき各府県が策定する総量削減計画の着実な実施及び事業場に対する総量規制基準の遵守の徹底等を図るとともに、平成16年度に第5次総量規制の目標年度を迎えることから、第6次総量規制の検討を行うこととしています。

今年度は、平成18年度に策定された、平成21年度を目標年度とする第6次総量規制に係る「化学的酸素要求量、窒素含有量及びりん含有量についての総量削減基本方針」に基づき、総量削減計画、総量規制基準を策定し、事業者への通知、基準遵守の指導を行いました〔各府県〕。また、中央環境審議会答申「第6次水質総量規制の在り方について」（平成17年5月）で閉鎖性海域における目標とすべき水質、水質汚濁メカニズムの調査研究及び効果的な対策の在り方を検討することとされたことを踏まえ、「閉鎖性海域中長期ビジョン対策に係る懇談会」を設置し、大阪湾の目指すべき水環境の目標とその達成に向けたロードマップを明らかとする閉鎖性海域中長期ビジョンの策定に向け検討を開始しました。

また、次年度以降は、第6次総量削減計画を着実に実施するとともに、平成21年4月の総量規制基準の全面適用に向けた取り組みを推進するとともに、中長期ビジョンの策定に向けた検討を進めていきます〔環境省〕。



中長期ビジョン策定調査（平成19～21年度）の概要

(2) 関係各機関の連携による総合的な負荷削減対策の実施

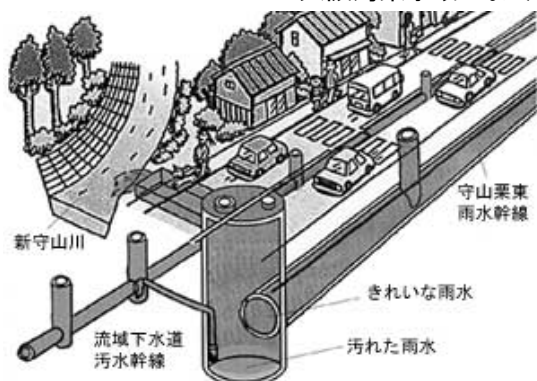
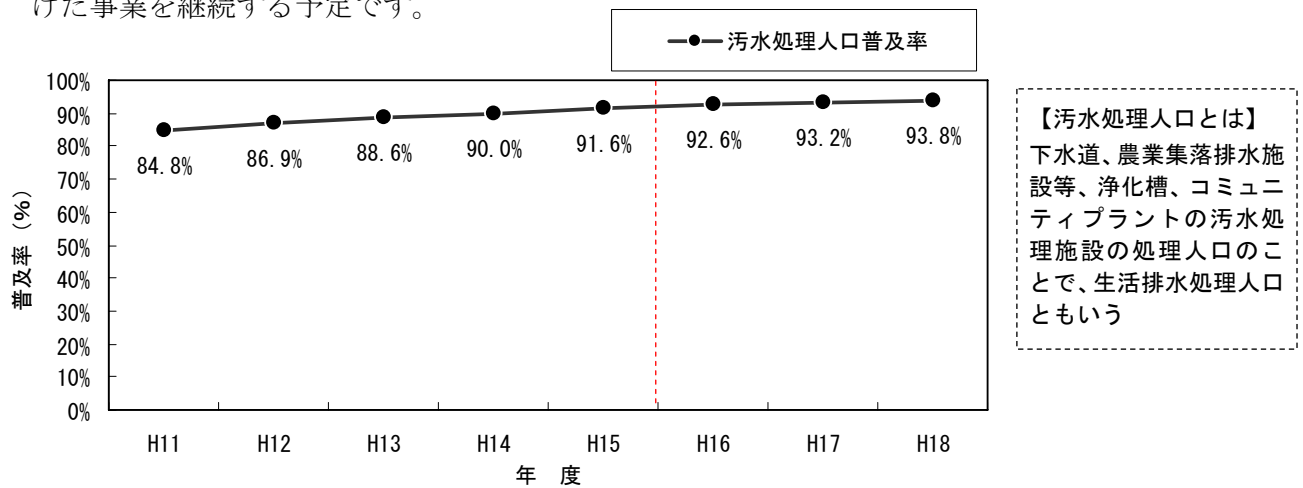
- 下水道事業、農業集落排水事業、浄化槽事業との連携による生活排水処理対策の実施<継続>
- 面源負荷対策の実施<継続>
- 農業排水（濁水）対策の実施<継続>

行動計画においては、陸域からの汚濁負荷を削減するために、総合的な負荷削減のため、関係機関等の連携のもと、高度処理、面源汚濁負荷対策等を含めた効率的、総合的な負荷削減のための計画策定及び事業実施を図ることとしています。

今年度は、昨年度に引き続き、以下の事業を実施しました。

- ①下水道（整備、高度化、合流改善）、農業集落排水施設整備、浄化槽（整備、高機能化）による生活排水処理対策の継続実施〔各府県市〕
 - ・単独浄化槽の撤去費用に対する助成〔滋賀県〕
- ②滋賀県・第5期湖沼水質保全計画に基づく計画的な汚濁負荷削減対策の推進〔滋賀県〕並びに貯留による雨水流出抑制対策等の面源負荷対策の実施〔滋賀県、京都市、大阪市〕
 - ・守山栗東雨水幹線の貯留機能を活用した対策に向けた整備〔滋賀県〕、一般家庭への雨水貯留タンク普及促進助成制度〔大阪市〕、雨水貯留施設設置助成金制度・浸透側溝整備〔京都市〕
- ③技術開発や農業者への啓発による、農業排水（濁水）の発生抑制、流出防止対策の継続実施〔滋賀県〕

また、次年度以降も、引き続き上記の関係各機関の連携のもと、総合的な負荷削減へ向けた事業を継続する予定です。



- 雨の時は、雨水を速やかに雨水幹線に流入させる
- 雨水幹線が満水になると、新守山川に自然流下
- 雨が止んだ後きれいな水は川に流し、汚れた水は流域下水道汚水幹線に排出し、下水処理場で処理

雨水幹線設備による浸水対策と市街地排水浄化対策（守山栗東雨水幹線）

(3) 下水処理場からの排出負荷量の削減

- 新たな下水処理場として甲賀市（信楽）単独公共下水道の供用を開始＜完了＞
- 石田水環境保全センター、今池水みらいセンター、狭山水みらいセンター、池田下水処理場、武庫川下流浄化センターの高度処理化の一部完了＜一部完了＞
- 泉北下水処理場の高度処理施設整備に着手＜継続＞
- 「合流式下水道緊急改善計画」に基づく合流式下水道の改善＜継続＞

行動計画においては、陸域からの汚濁負荷を削減するために、以下のとおり下水道事業を推進することとしています。

- ①大阪湾の集水域内で下水道事業を予定している全地域において事業に着手するものとし、新たに4処理場の供用開始を目指す
- ②新たに24箇所の処理場での高度処理化を目指す
- ③合流式下水道の改善については合流式下水道緊急改善計画を平成16年度末までに策定し、早期にこれに基づき重点的・効果的に改善事業（ろ過スクリーン設置、貯留施設、消毒施設整備等）を実施する

今年度は、昨年度に引き続き、以下の事業を実施しました。

- ①甲賀市（信楽）単独公共下水道〔滋賀県〕の1処理場の供用開始（平成19年度末予定）ならびに寝屋川北部流域下水道（なわて水みらいセンター）及び寝屋川南部流域下水道（竜華水みらいセンター）〔大阪府〕の2処理場の供用開始へ向けた事業の継続
- ②石田水環境保全センター〔京都市〕、今池水みらいセンター・狭山水みらいセンター・池田下水処理場〔大阪府〕、武庫川下流浄化センター〔兵庫県〕の5処理場での高度処理施設整備の一部完了、泉北下水処理場〔堺市〕の1処理場での高度処理施設整備着手、他5処理場（高槻水みらいセンター・川俣水みらいセンター〔大阪府〕、甲子園浜浄化センター〔西宮市〕、垂水処理場〔神戸市〕、三宝下水処理場〔堺市〕）での高度処理施設整備事業の継続

下水道普及率（平成18年度末）：89.7%

高度処理人口普及率（接続人口）（平成18年度末）：38.8%

- ③流域の下水道管理者による「合流式下水道緊急改善計画」に基づく改善事業の継続

また、次年度以降も、引き続き上記の事業を継続するとともに、武庫川下流流域下水道事業では平成20年度に合流式下水道改善が完了する予定です。



(4) 河川浄化

- 大和川水系（大和川、東除川、曾我川、土庫川）での浄化施設整備及び曾我川浄化施設の機能向上対策の実施、寝屋川水系（寝屋川、平野川）、樫井川での浄化浚渫、及び琵琶湖などでの汚濁負荷削減のための一時貯留池整備<継続>
 - 近木川河口干潟の造成<継続>
-

行動計画においては、河川の浄化対策については、河川浄化施設による浄化（大和川水系、寝屋川水系、樫井川など）、浄化浚渫による有機汚濁対策（寝屋川水系、石津川、樫井川など）に加え、河口干潟（近木川）などの保全・再生に伴う窒素・りん等の栄養塩類の削減を、当該河川関係住民の意見をふまえた河川整備計画に基づき、積極的に推進することとしています。

今年度は、昨年度に引き続き、大和川で薄層流浄化施設及び植生浄化施設の設置〔近畿地方整備局〕、東除川（大和川水系）で薄層流浄化施設の設置〔大阪府〕、土庫川での接触酸化法による河川浄化施設の設置〔奈良県〕を実施しました。また、寝屋川水系（寝屋川、平野川）、樫井川では浄化浚渫を実施しました〔大阪府〕。

琵琶湖においても、昨年度に引き続き、木浜内湖、西の湖において浄化浚渫、赤野井湾に流入する天神川の汚濁負荷削減のための一時貯留池の整備を行いました〔滋賀県〕。

近木川では、河口干潟の造成を推進しました〔大阪府〕。

また、次年度以降も、引き続き河川浄化事業ならびに河口干潟（近木川）造成を継続する予定です。

(5) 森林整備

- 市民、地域と連携した森林整備の推進<継続>
- 公共工事での間伐材等の木材利用<継続>
- 森づくりへの企業参加を促すための「アドプトフォレスト制度」の推進<継続>

行動計画においては、「漁民の森づくり」や「里山ボランティア活動の推進」など多様な主体が参加・協力した森林整備の推進に努めるとともに、公共土木工事における間伐材の利用や、水質浄化材としての木炭や竹炭の利用など、森・川・海が連携した森づくりの取り組みや、循環型資源としての木材利用を進めることとしています。

今年度は、昨年度に引き続き、市民、地域と連携した森林整備を推進しました。

- ・箕面市の箕面国有林に設定した都市型の「里山整備モデル林」において、「国有林における里山再生ガイドライン」を活用した地域や森林ボランティアと連携した森林整備の実施〔近畿中国森林管理局〕
- ・「森林ボランティア育成1万人作戦」の展開（平成19年度末目標：8,038人）〔兵庫県〕
- ・府民参画による森林整備等の促進（京都モデルフォレスト）、ボランティア団体が行う森林整備等の促進〔京都府〕
- ・森づくりへの企業参加を促すための「アドプトフォレスト制度」の推進〔大阪府〕

また、公共工事の木材利用を推進しました〔近畿中国森林管理局、各府県市〕。

その他、土木工事（巨椋池干拓地の幹線排水路工事）において住民参加により水生植物の植栽や竹炭を沈め、水質向上を行うとともに普及啓発を図りました。〔京都府〕

また、次年度以降も、上記の取り組みを継続する予定です。



巨椋池干拓地幹線排水路工事（竹炭による水質浄化、水生植物植栽）

1-1-2 陸域負荷削減以外の施策

(1) 河川清掃活動

- 「3000 万人瀬戸内海クリーン大作戦」、「淀川わんどクリーンキャンペーン」、「環境美化推進の日（猪名川）」 「大和川クリーンデー」 等と連携した河川清掃<継続>

行動計画においては、今後も市民活動等との連携による清掃活動を推進するとともに、ごみの種類の分類、海域でのごみ漂着の実態を広く一般に提示することなどを通じて発生源におけるごみ削減の基盤づくりを支援することとしています。

今年度は、昨年度に引き続き、「3000 万人瀬戸内海クリーン大作戦」「淀川わんどクリーンキャンペーン」「環境美化推進の日（猪名川）」 「大和川クリーンデー」 等と連携した河川清掃活動を実施しました [近畿地方整備局、滋賀県、京都府、大阪府、奈良県、兵庫県、京都市、大阪市、堺市、神戸市など]。

また、次年度以降も、関係機関や関係部署と連携し、上記の事業を継続する予定です。

【参考】

- ・ 河川におけるごみ回収量：約 31 トン（市民参画による取り組み）
約 107 トン（行政による取り組み） 合計：約 139 トン



河川清掃活動の様子

1-2 海域における環境改善対策の推進

1-2-1 多様な生物の生息・生育

(1) 藻場・干潟等の創出

- 藻場造成（計画を上方修正し、新たに4.0ha 造成）＜継続＞
- 干潟、砂浜等の浅海域整備＜継続＞

行動計画においては、多様な生物の生息・生育を実現するために、極力、藻場・干潟といった浅海域の整備を行うものとし、具体的には、尼崎臨海地区（「尼崎の森中央緑地（人工干潟の整備）」約0.7ha、堺泉北港堺第2区（「人工干潟整備（エコポートモデル事業等）」約10ha）等に人工干潟や浅場を整備し、神戸空港（「人工ラグーン等の整備」約2ha）には人工ラグーンを整備し、大阪港夢洲（「舞洲と夢洲の連続した海岸線の干潟、海浜、磯場の整備」約0.5km）等では砂浜や磯浜を整備することとしています。

今年度は、昨年度までに計画量の造成が完了した岬町・阪南市地先に次いで、計画を上方修正し、新たに4.0haを田尻町地先において造成しました〔大阪府〕。

堺泉北港堺第2区人工干潟の整備を継続して実施しました〔大阪府〕。

※干潟や藻場は、生物の生息・生育の場として重要なだけでなく、水質改善機能も有していることから、これらの取り組みは、「2-1 水質の改善（年間を通して底生生物が生息できる水質レベル・人々の親水活動に適した水質レベルの確保）」についても効果を発揮するものと期待されます。

また、次年度以降も、上記の事業を継続する他、新たに、人間の手で管理がなされることにより生産性が高く豊かな生態系を持つ「里海」創生支援のため、沿岸生態系の回復、保全に関する先進的な取組を実施している海域をモデル地域とし里海づくりマニュアルを作成する予定です〔環境省〕。



堺泉北港堺第2区人工干潟

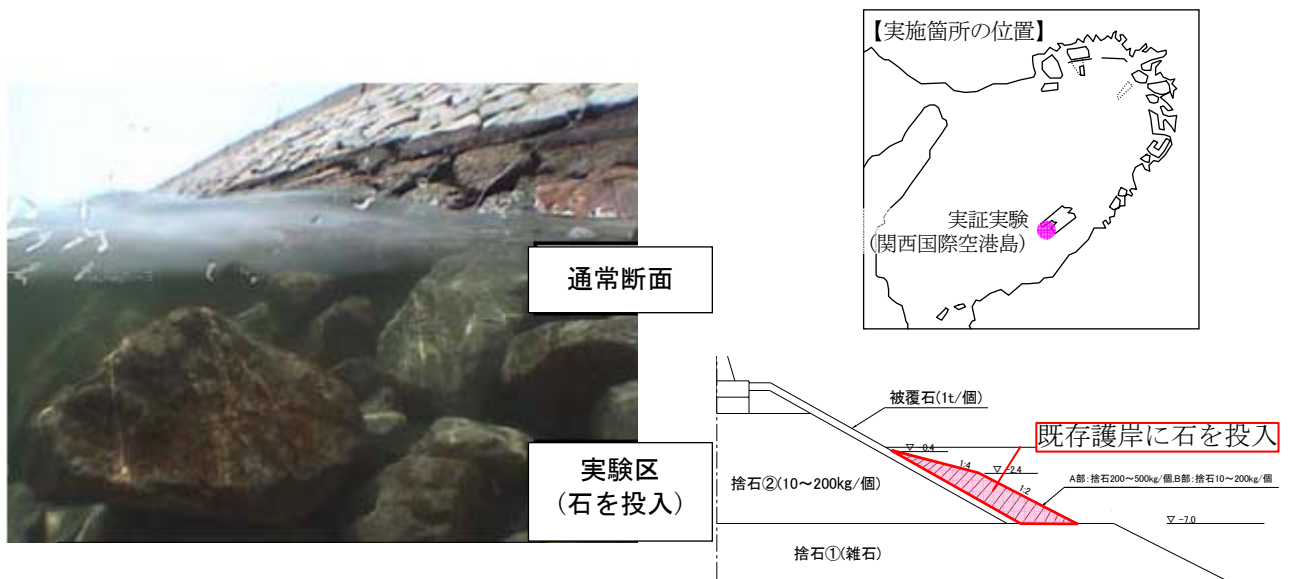
(2) 護岸への生物生息機能の付加（実証実験）

● 関西国際空港・第二期空港島の緩傾斜護岸に対し、さらなる環境改善機能付加へ向けた実証実験を実施中＜継続＞

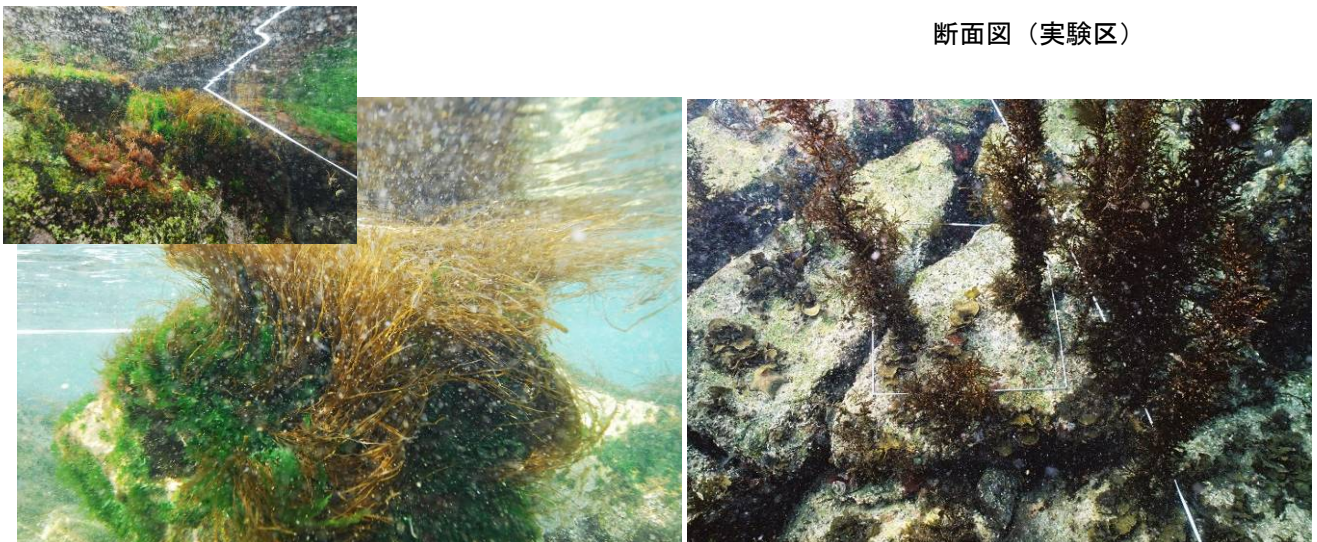
行動計画においては、既存の護岸、岸壁、防波堤等の直立人工構造物については、生物多様性を確保するための環境改善機能を付加することを目指すこととしています。

今年度は、昨年度に引き続き、関西国際空港二期空港島の緩傾斜護岸に石を投入し地形の凹凸を設けることなどによる効果検証のための実証実験（モニタリング）を実施しました〔近畿地方整備局神戸港湾空港技術調査事務所〕。

また、次年度以降も、実証実験を継続するとともに、これまでに実施した実証実験の成果や技術を水平展開できないか、有効活用へ向けた検討を実施する予定です。



断面図（実験区）



多様な海藻が繁茂（実験区） H19. 2

実験区に比較し単調な海藻群落（既存護岸） H19. 2

1-2-2 親水性の向上

(1) 臨海部における親水拠点整備

- 臨海部緑地の推進<継続>
- 親水的な海岸線整備の推進<継続>

行動計画においては、快適な海辺空間の充実を目指し、臨海部における親水性の高い交流拠点や公園緑地の整備を進めるものとし、具体的には、海洋性レクリエーション拠点、市民の憩いの場や環境教育の場として、ポートアイランド（「西緑地」約1km）や堺泉北港堺旧港（「堺地区（高潮事業）」約1km）等での親水護岸の整備、大阪港夢洲等での砂浜や磯浜の整備、神戸空港における人工ラグーン等（約5ha）、尼崎臨海地区（「尼崎の森中央緑地」約29ha）や堺第2区（「暫定利用緑化」約2ha）、堺第7-3区（「共生の森事業（港湾環境整備事業）」約12ha）などで海辺空間としての緑地の整備を行うこととしています。

今年度は、昨年度に引き続き、堺第7-3区における共生の森の整備（基盤造成及び地盤改良）を市民ボランティアと協働でワークショップ形式で推進する〔大阪府〕とともに、尼崎臨海地域の緑化及び人工干潟の設計（尼崎21世紀の森）〔兵庫県〕、神戸空港人工ラグーンの背後緑地の整備〔神戸市〕を実施しました。

また、堺泉北港堺旧港で昨年度完成した南側護岸の整備に続き、北側護岸の整備を実施しています。〔大阪府〕

また、次年度以降も、上記の事業を継続する他、新たに、堺泉北港堺第2区先端において基幹的広域防災拠点緑地の整備事業に着手していく予定です〔近畿地方整備局〕。



植樹の様子



植樹の様子



ワークショップの様子（屋外）



ワークショップの様子（屋内）

市民ボランティアとの協働による
共生の森（堺第7-3区）事業



(2) 親水活動の実施

● 「なぎさ海道」ウォーク、「阪神なぎさ回廊ウォーク」＜継続＞

行動計画においては、人と海とが豊かに触れ合う魅力ある海辺空間の象徴として、「なぎさ海道」、「なぎさ海道ウォーク」等による活動を今後も推進することとしています。

今年度は、昨年度に引き続き、「なぎさ海道」ウォーク〔(財)大阪湾ベイエリア開発推進機構〕及び「阪神なぎさ回廊ウォーク」〔兵庫県〕を実施しました。

また、次年度以降も、これらの取り組みを継続する予定です。

【参考】

- ・「なぎさ海道」ウォーク：参加者 12,477人、21回実施（大阪湾沿岸、平成20年3月時点）
- ・阪神なぎさ回廊ウォーク：参加者 188人（10/21(日)に3コース（尼崎・西宮・芦屋各1コース）実施）



「なぎさ海道」ウォーク（明石海峡大橋）



「なぎさ海道」ウォーク（りんくう公園）



阪神なぎさ回廊ウォーク（西宮港大橋）



阪神なぎさ回廊ウォーク（ベイサイドカフェ）

1-2-3 浮遊・漂着・海底ごみの削減

(1) ごみ回収（漂着・浮遊・海底ごみ）

- 「大阪湾クリーン作戦」、「リフレッシュ瀬戸内」、海洋環境整備船による浮遊、漂着ごみ回収、底びき漁船による海底ごみ除去<継続>
- 新造船・海洋環境整備船（Dr. 海洋）の就航<完了>
- 海底ごみの種類、分布密度等についての実態調査の実施<継続>

行動計画においては、ごみ発生防止に当たっては、「大阪湾クリーン作戦」や「魚庭（なにわ）の海づくり大会」、南港野鳥園、阪南市福島海岸等での「港湾・海岸美化活動」などの河川、海域における住民、NPO、企業などが実施しているあらゆる美化活動と連携し、さらにこの活動を発展させ投棄ごみの削減を目的とした環境広報活動等を行うこととしています。また、海底ごみについて大阪湾全域を対象とした漁業者の協力を引き続き得ながら回収活動を行うこととしています。

今年度は、新造船・海洋環境整備船（Dr. 海洋）を神戸港に配備し、浮遊ごみの回収の他、油回収等に従事しました〔近畿地方整備局〕。また、新たに海底ごみの種類、分布密度等についての実態調査を実施しました〔環境省〕。

その他、昨年度に引き続き、「大阪湾クリーン作戦」〔第五管区海上保安本部〕、「リフレッシュ瀬戸内」〔海の路ネットワーク推進協議会〕、海洋環境整備船による浮遊ごみ回収〔近畿地方整備局〕及び底びき漁船による海底ごみの除去〔大阪府〕を実施しました。「リフレッシュ瀬戸内」の実施期間に合わせ、「海の健康診断調査」（ゴミの組成調査）を実施し、ゴミの実態を調査しました。

また、次年度以降も、上記の取り組みを継続する他、海底ごみ対策について、海底ごみの分布実態調査結果を踏まえ、将来的な処理体制のあり方について検討する予定です〔環境省〕。

【参考】

- ・大阪湾クリーン作戦：84 機関・団体 5,204 人の参加、約 582 トン回収〔第五管区海上保安本部〕
- ・リフレッシュ瀬戸内：4,509 人参加、46.5 トン回収〔海の路ネットワーク推進協議会〕
- ・海の健康診断調査：192 人参加、プラスチック率 約 90%〔海の路ネットワーク推進協議会〕
- ・海洋環境整備事業（海洋環境整備船による浮遊ごみ回収）：1,500 m³（4-12 月）〔近畿地方整備局〕
- ・底びき漁船による海底ごみの除去：海底ごみ 67m³〔大阪府〕



ごみ回収風景（堺）

(2) 浮遊ごみ流出機構の把握

●精度の高いごみ分布予測システムの検討<継続>

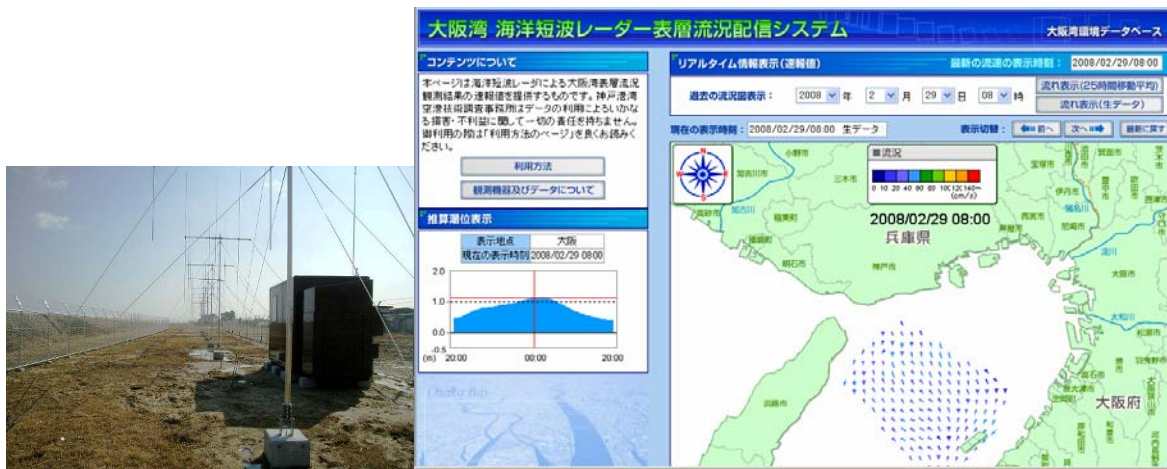
行動計画においては、精度の高い浮遊ごみ分布予測システムの構築、回収履歴等のデータベース化について検討を進めることとしています。

今年度は、海洋レーダ等の新しい観測システムを取り込んでより精度の高いごみ分布予測システムを検討し、清掃船による効率的なゴミ回収を進めます。[近畿地方整備局神戸港湾空港技術調査事務所]

また、次年度以降も上記の取り組みを継続する予定です。



清掃船（神戸港湾事務所所有）



大阪湾海洋短波レーダによる表層流況観測

(大阪湾環境DB (<http://kouwan.pa.kkr.mlit.go.jp/kankyo-db/>) より)

1-3 大阪湾再生のためのモニタリング

1-3-1 環境監視のためのモニタリング

(1) 効果的・効率的なモニタリングの実施

●国、沿岸府県、臨海部の事業者・企業及び大学との連携による「大阪湾再生水質一斉調査」＜継続＞

行動計画においては、効果的かつ効率的なモニタリングを実施するために、調査項目等の統一化・集約化を行っていく必要があることから、関係機関が連携したモニタリングの実施体制を検討することとしています。

今年度は、昨年度に引き続き、国土交通省、大阪府、兵庫県、大阪市、堺市や神戸市などの沿岸市に加え、臨海部の事業者や企業等が連携し、平成19年8月に海域と陸域（河川）で、水質一斉調査を実施しました。

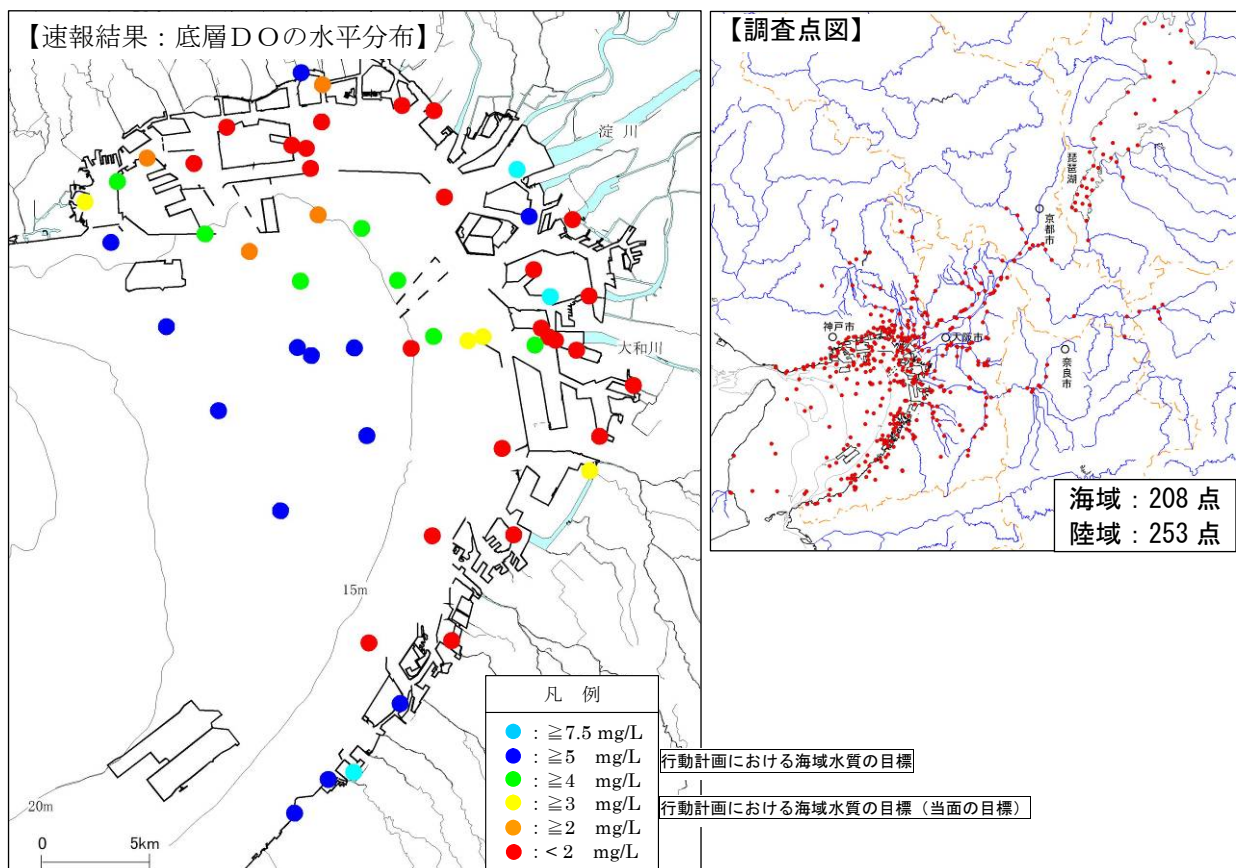
また、次年度以降も、水質一斉調査を継続する予定（8月5日予定）です。

[調査点数] 合計：461点（海域：208点、陸域：253点）

- ・海域：国及び自治体174地点、事業者・企業31地点、大学3地点
- ・陸域：国及び自治体253地点（一部8/7前後に実施）、下水放流水データも活用

[調査内容]

- ・測定水深の統一化を図り大阪湾全域での水質水平分布を把握
 - ・あわせて水平的、鉛直的な貧酸素水塊の分布把握を目的に測線調査を実施
 - ・一斉調査の一時的な調査結果を補足する連続調査を実施
- 一斉調査の翌日（8月8日）に速報結果を公表



注) 本結果は速報値であり、確定後訂正される可能性のある値である。

大阪湾再生水質一斉調査 速報結果（平成19年8月8日報道発表）

(2) モニタリング内容の充実化

●新造船・海洋環境整備船「Dr. 海洋」による水質調査の実施<継続>

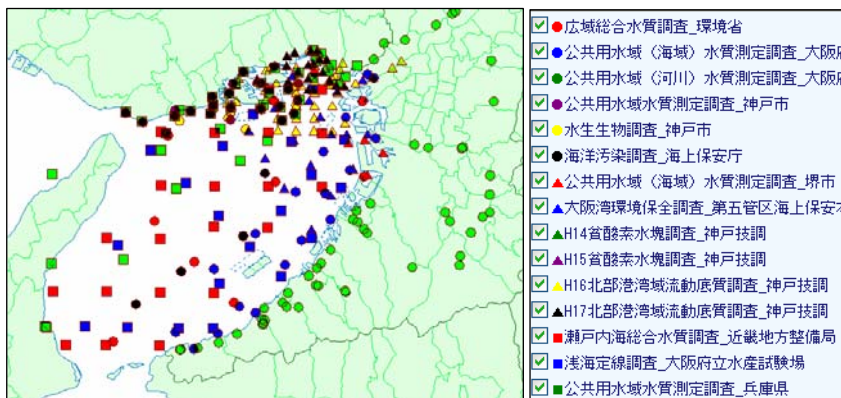
行動計画においては、湾再生において各種環境改善施策が「水質の改善」「多様な生物の生息」「親水性の向上」「浮遊・漂着・海底ごみの削減」といった目標に対して講じられることから、これらを視野に入れたモニタリングの内容を一層充実していくこととすることをしています。特に、生物に被害を及ぼす貧酸素水塊の発生状況を的確に把握するために、DOのモニタリングを充実することとしています。

今年度は、昨年度に引き続き、公共用水域水質測定計画に基づく常時監視〔大阪府、兵庫県、大阪市、堺市、神戸市など〕、瀬戸内海総合水質調査〔近畿地方整備局神戸港湾事務所〕、地球観測衛星画像による海域のモニタリング〔第五管区海上保安本部〕、大阪湾湾奥部を中心とした大阪湾環境保全調査において溶存酸素濃度（DO）の測定を実施するとともに、調査結果をホームページで公開〔第五管区海上保安本部〕しました。また、今年度4月より導入した新造船「Dr. 海洋」により運航時の水質調査を実施しました〔近畿地方整備局神戸港湾事務所〕。

また、次年度以降も、これらのモニタリングを継続する予定です。



新造船・海洋環境整備船（Dr. 海洋）による水質調査



参考)

大阪湾における水質調査の実施状況

1-3-2 市民参加のためのモニタリング

(1) 市民参加によるモニタリングの実施

●市民、行政の協働による取り組みから、市民・NPO 主導による取り組みへの転換<継続>

●市民参加型モニタリングの情報発信の実施<継続>

行動計画においては、市民参加を促進するためには、市民にとってわかりやすく、地域の生活や興味と密着したテーマのモニタリング活動の場を提供することが重要であるとしています。

今年度も昨年度に引き続き、市民参加型のモニタリングが行われました。多様な主体の連携による取り組みの他、市民主導による取り組みも増えつつあります。また、それらのモニタリングの実施状況や結果について広く情報を発信しています。

①市民、学識者、行政の協働による取り組み

・ボランティアダイバーと連携した都市型ダイビングスポットにおけるアマモ移植実験〔大阪府〕

・淀川、大和川水系水生生物調査〔近畿地方整備局河川部〕

②NPO、市民主導による取り組み

・「生き物」を指標とし、調査場所に生息する生物種により水環境を把握する試みとして「大阪湾（生き物）一斉調査」プログラムを、淀川河口の矢倉海岸で試行〔近畿地方整備局神戸港湾空港技術調査事務所〕

・兵庫運河真珠貝プロジェクト〔後援：神戸市〕

③市民参加型モニタリングの情報発信

・釣り人による水質モニタリング〔大阪府、近畿地方整備局港湾空港部〕

・瀬戸内海海岸漂着ごみ対策フォーラムの開催〔兵庫県〕

・「ほっといたらあかんやん！大阪湾フォーラム」〔近畿地方整備局神戸港湾空港技術調査事務所〕

また、次年度以降も、これらの取り組みを継続するとともに、市民・NPO 主導での取り組みの転換を進める予定です。



密生するアマモ



ボランティアダイバー

都市型ダイビングスポットにおけるアマモ移植実験

1-3-3 情報の共有化及び発信

(1) 大阪湾環境データベース

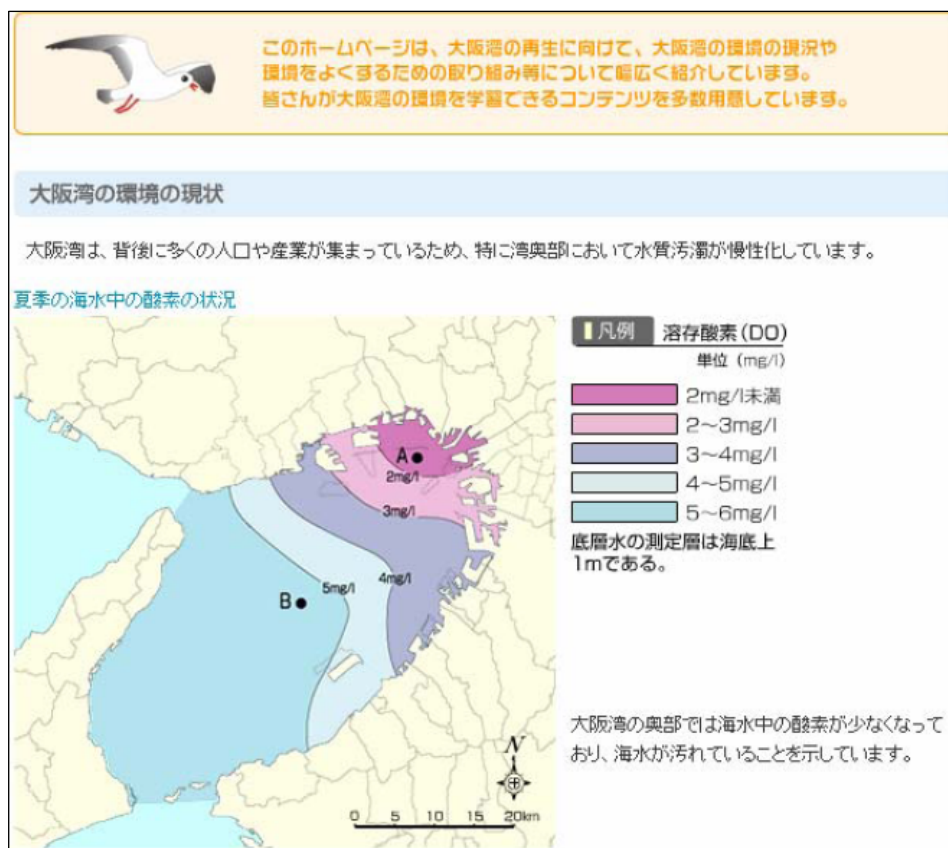
●大阪湾再生のためのモニタリング実施状況の集約・公開<継続>

●市民にわかりやすい情報発信の検討<継続>

行動計画においては、モニタリング結果等の情報を広く有効に活用するためには、情報の共有化を図るとともに、大阪湾の環境改善への関心を高めるために市民にわかりやすい形で発信していくことが必要であるとしています。また、国土交通省近畿地方整備局が整備を進めている大阪湾環境データベース (<http://kouwan.pa.kkr.mlit.go.jp/kankyo-db/>) を活用して大阪湾再生のためのモニタリングに関する情報・データを一元的に集約・管理し、発信することにより、情報を広く有効に活用することとしています。

今年度は、国、地方自治体等によるモニタリングの実施状況を集約し、「大阪湾環境データベース」(クリアリングハウス)で公開しました。また、「大阪湾環境データベース」を市民がより利用しやすくするため、大阪湾環境再生連絡会において市民、学識者のアドバイスを得ながら検討を進めました。[近畿地方整備局神戸港湾空港技術調査事務所]

また、次年度以降も、これらの取り組みを継続する予定です。



「大阪湾環境データベース」“はじめてアクセスされた方へ”【イメージ】

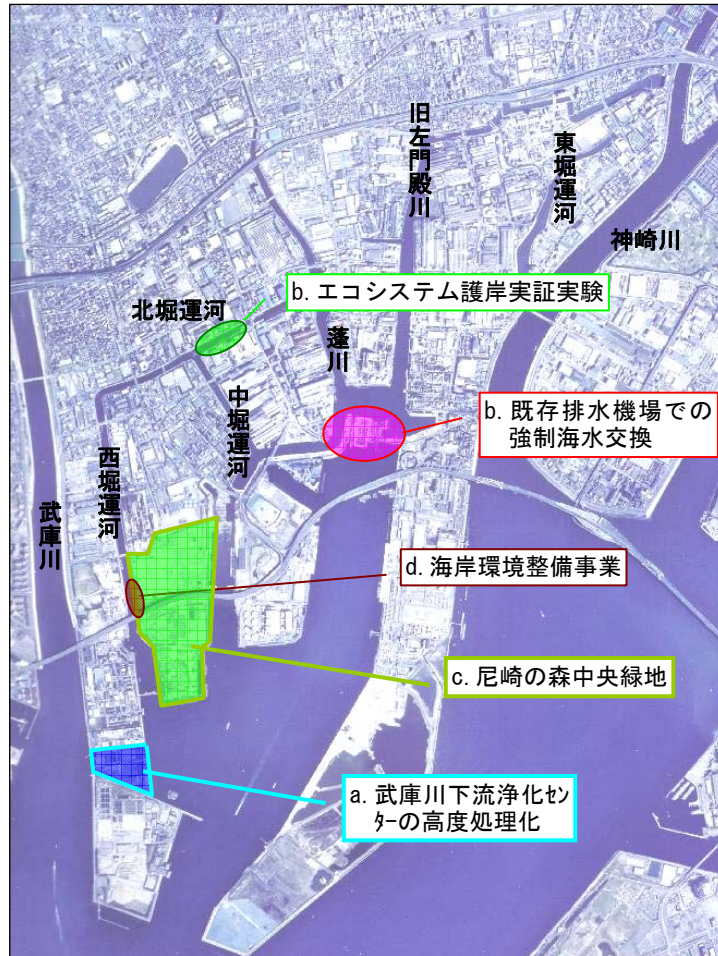
1-4 アピールポイントにおける施策の推進

(1) 尼崎臨海部、堺浜周辺における集中的・先駆的な取り組み

●水環境やパブリックアクセス改善のための集中的かつ先駆的な取り組み<継続>

① 尼崎臨海部における集中的・先駆的な取り組み

- a. 武庫川下流浄化センターの高度処理化 [兵庫県] (流入負荷の削減)
- b. 尼崎シーブルー事業 (各種の水質浄化実験)
- c. 尼崎臨海地域の緑化 (尼崎の森中央緑地) [兵庫県] (緑地整備)
- d. 海岸環境整備事業 [兵庫県] (遊歩道整備、植栽等)



尼崎臨海部における集中的・先駆的な取り組み



エコシステム護岸実証実験

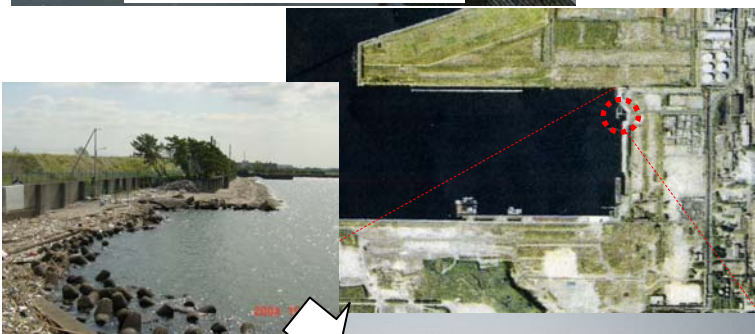
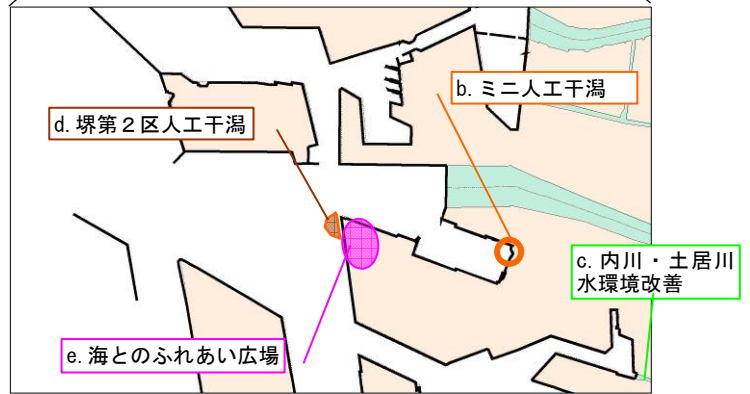
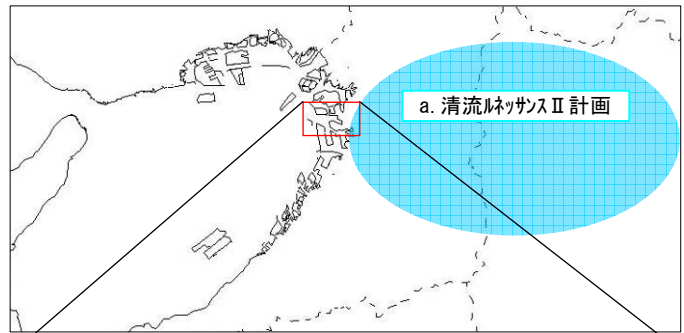


尼崎の森中央緑地の整備
(「尼崎21世紀の森」のリーディングプロジェクト)

②堺浜周辺における集中的・先駆的な取り組み

- a. 清流ルネッサンスⅡ計画 [近畿地方整備局、大阪府、奈良県] (流入負荷の削減)
- b. ミニ人工干潟 [大阪府] (実験用干潟)
- c. 内川・土居川での水質改善事業 [堺市] (水質浄化、底質改善等)
- d. 堺泉北港堺第2区人工干潟 [大阪府] (干潟整備)
- e. 堺第2区 (堺浜) 海とのふれあい広場 [堺市] (緑地整備)

また、次年度以降も、これらの改善効果が早期に発現するよう、上記の取り組みを継続するとともに、新たに、堺第2区先端において基幹的広域防災拠点緑地の整備に着手する予定です。



堺第2区 (堺浜) 臨海部開発 (建物イメージ)



ミニ人工干潟



海とのふれあい広場

2. 目標の達成状況

平成19年度時点における「大阪湾再生行動計画」の具体的な目標の達成状況は次のとおりです。

「(1) 海域生物の生息に重要な場を再生する」～「(3) 臨海部での人々の憩いの場を確保する」における各年度の数量は『整備完了』したものの数量であり、この他にも整備が進められています。

(1) 海域生物の生息に重要な場を再生する

干潟、砂浜については、現在、整備中である。

藻場については、行動計画期間内の計画数量（25.2ha：須磨沖、阪南市・岬町地先）のうち、合計で17.2ha（進捗率約68%）は既に整備され、海藻の活着を確認したほか、メバル、カサゴ等の保護・育成が図られている。

浅場については、行動計画期間内の計画数量（約2.4ha：神戸空港、御前浜）が既に整備され、活用されている。

① 干潟

	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	計
整備完了 (整備中は除く)	0 ha	0 ha	0 ha	0 ha	0 ha
計 画	約13.7 ha 参考) 行動計画策定時の目標：約10ha				

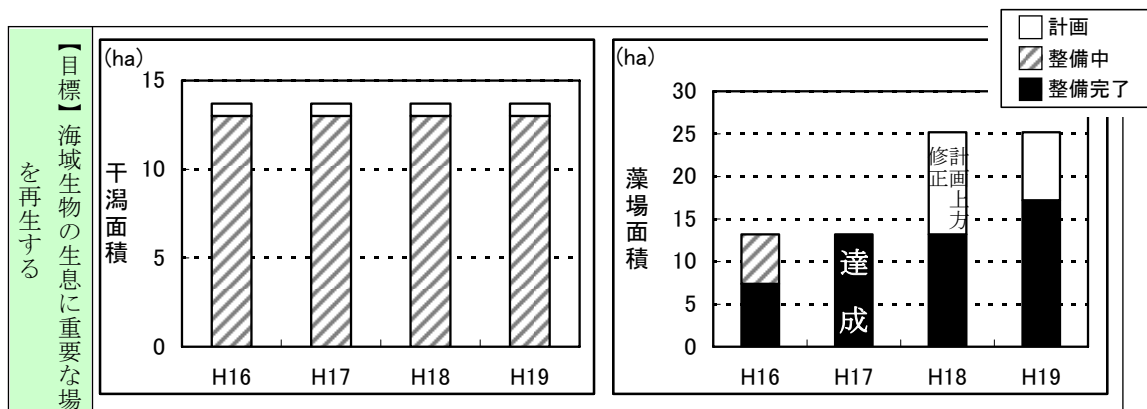
注) 行動計画策定時（H16.3月末）の大阪湾全体の干潟面積は15haである。

参考) 現在進行中の整備状況 堺泉北港堺第2区人工干潟（堺第2区／大阪府）
先端緑地整備等（泉北6区／大阪府）

② 藻場

	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	計
整備完了 (整備中は除く)	7.4 ha	5.8 ha	0 ha	4 ha	17.2 ha
計 画	約25.2 ha 参考) 行動計画策定時には具体的計画なし				

参考) 現在進行中の整備状況 増養殖場造成事業（田尻町地先／大阪府）



注) 整備中とは、工事着手していることを示す。

③ 浅場

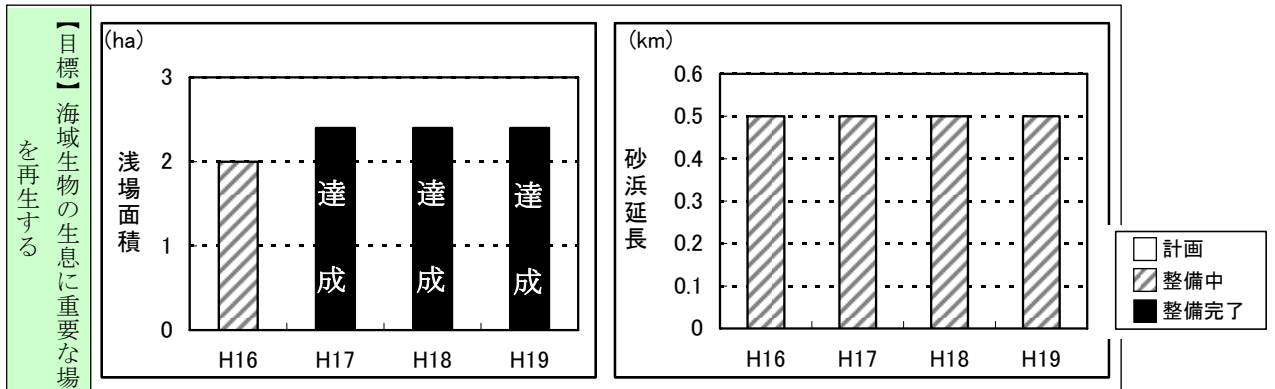
	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度	計
整備完了 (整備中は除く)	0 ha	2.4 ha	0 ha	0 ha	2.4 ha
計 画	約 2.4 ha 参考) 行動計画策定時の計画：約 2 ha				

【計画達成】

④ 砂浜

	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度	計
整備完了 (整備中は除く)	0 km	0 km	0 km	0 km	0 km
計 画	約 0.5 km 参考) 行動計画策定時の計画：約 0.5 km				

参考) 現在進行中の整備状況 干潟、海浜、磯場の整備 (舞洲、夢洲/大阪市)



注) 整備中とは、工事着手していることを示す。

(2) 人々が快適に触れ合える場を再生する

自然的な海岸線については、行動計画期間内の計画数量（約 5.0km：ポートアイランド、堺旧港、尼崎臨海部、堺第2区、福島海岸）のうち、全体で約 1.9km（進捗率約 38%）が完成した。整備が完了したものについては供用され、その他については整備が続けられている。

整備が完了したのは、堺旧港における親水護岸であり、臨海部における貴重な人と海との触れ合いの場となっている。また、尼崎臨海部においても遊歩道等の親水的海岸線が一部で完成し供用されている。

【自然的な海岸線延長】

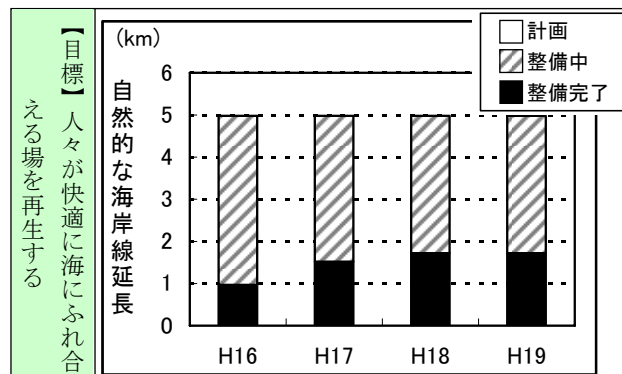
	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度	計
整備完了 (整備中は除く)	1.0 km	0.5 km	0.2 km	0.2 km	1.9 km
計 画	約 5.0 km 参考) 行動計画策定時の計画：約 3.7 km				

参考) 今年度の整備状況 海岸環境整備事業（尼崎／兵庫県）

現在進行中の整備状況 西緑地造成（ポートアイランド／神戸市）

親水護岸整備（堺旧港／大阪府）

海岸整備（福島地区／大阪府）



注) 整備中とは、工事着手していることを示す。

(3) 臨海部での人々の憩いの場を確保する

臨海部における海に面した緑地については、行動計画策定時の計画数量(約 98.4ha)のうち、全体で約 23.9ha(進捗率:約 24%)が完成し、供用されている。その他については全て整備が続けられている。

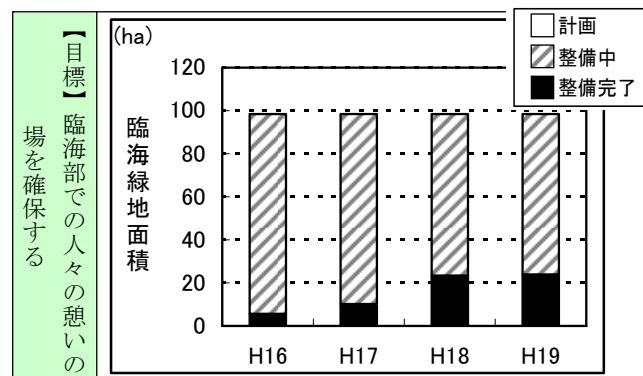
整備が完了したのは、堺第2区における親水緑地であり、既に供用されている。

【臨海緑地】

	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度	計
整備完了 (整備中は除く)	5.68 ha	4.55 ha	13.2 ha	0.5 ha	23.93 ha
計 画	約 98.4 ha 参考) 行動計画策定時の計画: 88.7 ha				

参考) 今年度の整備状況 府営公園の整備及び管理(二色の浜公園、りんくう公園、せんなん里海公園/大阪府)

現在進行中の整備状況 人工ラグーン等の整備(神戸空港/神戸市)
 尼崎臨海地域の緑化(尼崎 21 世紀の森)(尼崎/兵庫県)
 共生の森事業(堺第 7-3 区/大阪府)
 先端緑地整備等(泉北 6 区/大阪府)
 ふれあい漁港漁村整備事業(深日漁港、小島漁港/大阪府)



注) 整備中とは、工事着手していることを示す。

(4) ごみのない美しい海岸線・海域を確保する

河川、海岸、海上でごみ回収活動が毎年着実に実施されている。

河川ごみ、海岸漂着ごみについては、地域住民、ボランティア団体等との協働による回収活動が行われている。

浮遊ごみは海洋環境整備船、海底ごみは漁業者との協働による漁船での回収活動が継続的に実施されている。

【行政による取り組み】

	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度
浮遊ごみ	1013.7 t	213.2 t	724.8 t	285.0 t
漂着ごみ	48.9 t	48.0 t	—	—
海底ごみ	430.8 t	441.0 t	20.1 t	20.1 t
河川ごみ	—	109.8 t	195.4 t	107.2 t
計	1493.4 t	812.0 t	925.4 t	412.3 t

注) 1. 浮遊ごみ回収量が平成 16 年度に非常に多かったのは台風の影響によるものと考えられます。

2. 河川ごみは 6、7 月分の集計です。

【市民参画による取り組み】

	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度
漂着ごみ	892.2 t	804.1 t	899.7 t	629.8 t
海底ごみ	—	—	—	16.0 t
河川ごみ	37.2 t	25.6 t	39.1 t	31.4 t
計	929.4 t	829.7 t	938.8 t	677.2 t

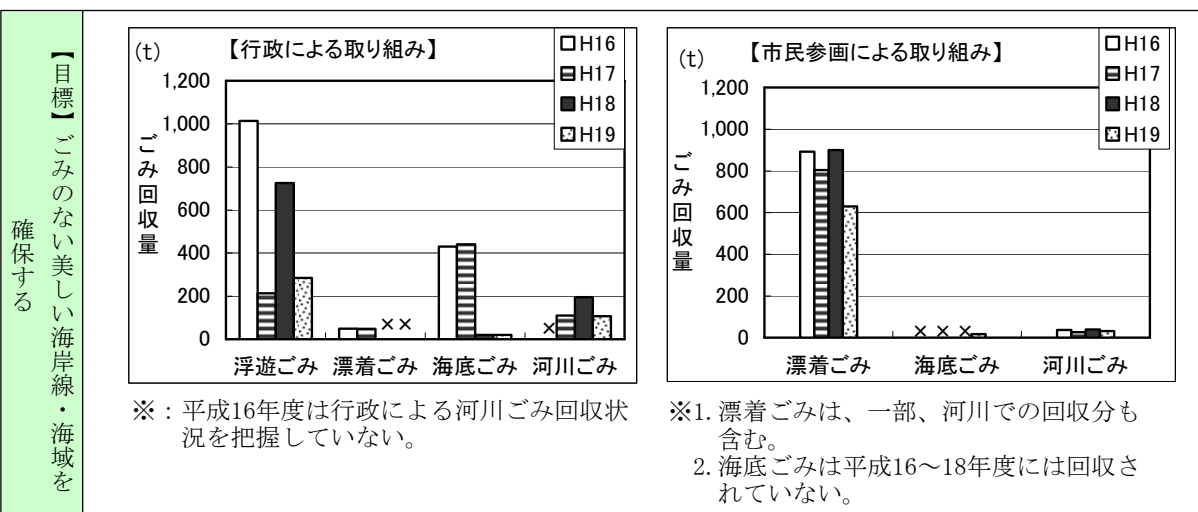
注) 漂着ごみは、一部、河川での回収分も含む。

河川ごみは 6、7 月の活動の集計です。

参考) 参加状況 平成 17 年度：のべ 36,202 人

平成 18 年度：のべ 29,820 人

平成 19 年度：のべ 25,528 人



3. 市民参画による「大阪湾再生」の元気な取り組み（平成 19 年度の主な取り組み事例）

3-1 市民参画による各種の取り組み

(1) 兵庫運河 真珠貝プロジェクト

- 「真珠のまち神戸」における市民による水質保全活動として、「兵庫運河 真珠貝プロジェクト」が、アコヤ貝の育成活動を通じた環境学習に積極的に取り組んでいます。

【場所】 兵庫運河 浜山レガッタコース

【主体】 兵庫運河 真珠貝プロジェクト（後援：神戸市、技術協力：(株) 大月真珠・日本真珠輸出組合）

【取り組み状況】

- ・ 6月30日：アコヤ貝移植式を開催、アコヤ貝 250 個を移植。
- ・ 7月～12月：会員の親子で当番を決めて、アコヤ貝についての海の生き物や泥を掃除したり、水温や水質の測定をするなどの活動を実施
- ・ 12月9日：浜揚げ式の開催、111 個の真珠が採り出された。
- ・ 1月19日：とれた真珠を使って会員がオリジナルアクセサリーを製作。



アコヤ貝の掃除



取り出された真珠



取り出された真珠でつくったアクセサリー



(2)「大阪湾（生き物）一斉調査」プログラムの試行

●大学、市民団体、国および地方公共団体等で構成する「大阪湾環境再生連絡会」において、大阪湾の水環境モニタリングと市民参加の促進に資する取り組みとして「大阪湾（生き物）一斉調査」を計画しており、このプログラムの作成を目的に大阪市西淀川区の矢倉海岸において沿岸生物の専門家、市民団体の代表者および周辺住民の方の参加協力を得て現地調査の試行を行いました。

【場所】 矢倉海岸（神崎川河口）

【主体】 大阪湾環境再生連絡会（事務局：近畿地方整備局）

【取り組み状況】

実施日：11月3日（土）（40名参加）



【調査結果】

- ◆フジツボ：タテジマフジツボ、ドロフジツボ等、4種類
- ◆貝：コウロエンカワヒバリ、ウヅラタマキビ等、34種類
- ◆カニ：ケフサイソガニ、タイワンガザミ等、5種類
- ◆その他：魚6種類、エビ2種類、アメフラシ1種類、ヤドカリ1種類、イソギンチャク1種類

大阪湾一斉調査（生物調査）調査シート

【調査の概要】

- 本調査は指導員が予め定めた範囲で行います。（指導員から指示があります。）
- 調査範囲において、「フジツボ」「貝」「カニ」「海浜植物」「海藻」の各指標生物を観察します。
- フジツボ「貝」については、岩に付着する指標生物を探し、観察できた指標について調査票に「○」を付けるとともに、観察場所における個体数を測定します。（ただし、砂浜・干潟においては1m四方（約内）アサリの個体数を測定します。）
- カニ、「海浜植物」「海藻」については、指標生物を探し、観察できた指標について調査票に「○」を付けます。
- 指標生物以外に観察できた生物の名称を調査票に記載します。
- 観察場所の種類（砂浜、磯・岩場、干潟）、調査範囲（幅、奥行き）、干潮時刻と潮位、河川の流入の有無、海岸背後の様子を調査票に記載します。
- その他、調査の方法などについては指導員の指示に従ってください。

どんなフジツボが見つかるかな？

磯の岩には様々なフジツボが付着しています。この中でも、クロフジツボは氷のきれいな場所に、逆にシロスジフジツボ、タテジマフジツボは氷の汚い場所に生息しています。

どんなフジツボが生息しているか調べてみましょう。

【調査の方法】

- まずフジツボが付着している岩を探します。
- 岩を見つけたらその種類のフジツボが付着しているかを確認します。
- 50cm四方の枠を当てて、各種類のフジツボの数を数えます。

<p>アカフジツボ（殻径 8cm、殻高 2cm）</p> <p>岩の隙間に生息し、殻の縁が黒い。殻の表面は滑らかで、殻の縁は黒い。</p> 	<p>タテジマフジツボ（殻径 2cm）</p> <p>岩の隙間に生息し、殻の縁が黒い。殻の表面は滑らかで、殻の縁は黒い。</p> 	<p>シロスジフジツボ（殻径 1~2cm）</p> <p>岩の隙間に生息し、殻の縁が黒い。殻の表面は滑らかで、殻の縁は黒い。</p> 
<p>ドロフジツボ（殻径 1.5~2cm）</p> <p>岩の隙間に生息し、殻の縁が黒い。殻の表面は滑らかで、殻の縁は黒い。</p> 	<p>アメリカフジツボ（殻径 1~3cm）</p> <p>岩の隙間に生息し、殻の縁が黒い。殻の表面は滑らかで、殻の縁は黒い。</p> 	<p>ヨーロッパフジツボ（殻径 1~2cm）</p> <p>岩の隙間に生息し、殻の縁が黒い。殻の表面は滑らかで、殻の縁は黒い。</p> 

生物調査記録用紙

調査団体名： _____

調査地点	干潮時刻
調査日時	潮位
年 月 日	天候
時 時	（気温：℃）
参加人数	河川の流入
人	有 ・ 無
場所の種類	砂浜 ・ 磯 ・ 岩場 ・ 干潟
調査範囲	海岸背後の
幅 m、奥行き m	山林、橋脚、道路、田圃、住宅地、
	種子
	工場、その他（ ）

指標生物	チェック	個体数	指標生物	チェック	個体数
フジツボ（種・岩場）			カニ		
クロフジツボ			アカガニ		—
アカフジツボ			ヒライソガニ		—
タテジマフジツボ			クフサイソガニ		—
シロスジフジツボ			イソガニ		—
ヨーロッパフジツボ			チチュウカイミドリガニ		—
アメリカフジツボ			ヤマトオソガニ		—
貝（砂浜・干潟）			ハロセンシヨマネキ		—
アサリ			アサハラガニ		—
貝（磯・岩場）			オウガイモ		—
カガキ			スナガニ		—
マガキ					
ムラサキガイ					
ミドリイガイ					
コロンガフヒバリ					
イガイダマシ					
セイヨウイボホリガイ					
ウネナシトマヤガイ					
マルウスラタマキビ					
海藻（種・岩場）					
アナオサ		—			
スジアノリ		—			
ヒトエダサ		—			
動物（砂浜）					
ハマヒルガオ		—			
ハマダイコン		—			
ハマゴウ		—			
コウボムギ		—			
オカヒジキ		—			
ハマボウフウ		—			
ハマウド		—			

【指標生物以外に観察された生き物】

調査シート

(3) 大阪湾内の海洋生物調査

●大阪湾におけるスナメリ(小型の鯨類)の生息状況を調査しました。

【海域】 大阪湾北部および東部海域

【主体】 大阪コミュニケーションアート専門学校（協働者：近畿地方整備局）

【取り組み状況】

瀬戸内海の中でスナメリの生息状況（分布・生息数とそれらの季節性）が未解明である大阪湾において、大阪コミュニケーションアート専門学校が平成17年度より同種の生息調査を開始しており、今までの調査結果から関西国際空港の周辺海域で春～夏に多く出現することを確認している。今年度は主に神戸港～尼崎西宮芦屋港沖の北部港湾域から関西国際空港周辺にかけての生息状況を協働で調査した。

今年度の調査の実施状況は次のとおりである。

- ・調査方法：船舶からの目視観察などによりスナメリの生息状況（分布範囲、生息数、それらの季節性）を明らかにする。
- ・調査日：7月26日、8月22日、9月10日、12月19日、1月22日、3月27日(予定)



スナメリの観察状況

(4) 市民、小学生による水質調査の実施（夏休みジュニア水質調査の日）

●産官学連携による大阪湾再生水質一斉調査と市民団体との連携による調査の実施

【取り組み状況】

①夏休みジュニア水質調査の日

実施日：平成19年8月5日（日）

実施場所：大阪南港魚つり園

参加者数：8組16人

主催：NPO法人釣り文化協会

内容：小学生が親子で“公認釣りインストラクター”の指導のもと、水質調査を実施

②市民による水質調査（平成19年8月2日～8月6日）

内容：釣り人、一般市民（調査員計93人）による釣り場を中心とした大阪湾沿岸域における定期水質調査〔主体：NPO法人釣り文化協会〕



市民による水質調査の実施風景



(5) 舞洲における環境学習と魚つりの社会実験

- 大阪湾の自然環境保持の大切さを学び、さらには魚つりのマナーの向上を目的として開催しました。

【場所】舞洲緑地 シーサイドプロムナード東側

【主催】社団法人全日本釣り団体協議会、財団法人日本釣振興会大阪府支部、NPO 法人釣り文化協会

【共催】大阪市港湾局

【取り組み状況】

内容：大阪港の水質に関する講習会と魚つきを通じた魚類の棲息調査及び会場周辺の共同清掃を行った。両日で200名参加。

開催日：平成19年9月23日（日）、平成19年10月14日（日）



舞洲における環境学習と魚つりの社会実験の実施風景

(6) 海辺の漂着物調査

- 漂着物を調査することによって、海辺の汚れ具合を把握して行政施策に反映することと、調査への参加を通して、ごみを捨てない心、海の環境を守ろうとする心を育てます。

【日時】平成 19 年 9 月

【場所】甲子園浜

【主催】NPO 法人海浜の自然環境を守る会

【内容】波打ち際から陸地方向へ連続的に縦横 1 0 m の区画を 3 区画設定し、漂着物を区画ごとに採集、分類、計量、集計します。平成 17 年度から定点観察をしています。



清掃活動



ごみの分類作業

(7) “クリーンアップ大作戦” スペシャル in 舞洲

- 舞洲緑道人工磯の清掃活動や舞洲の環境関連施設での見学等により、海辺の自然に対する関心を高める活動を行いました。

【日時】平成 19 年 11 月 11 日（日）

【場所】舞洲緑道（人工磯）

【主催】此花区まちづくり会議

【内容】此花区の地域清掃活動のスペシャル版として実施。参加人数 1,000 名、ごみ回収量約 5.5 トン。



“クリーンアップ大作戦” スペシャルによる清掃活動の実施風景

(8) 市民主導による御前浜での浜辺を美しくする取り組みの実施

●御前浜・香櫨園浜プロジェクトの一環として、市民主導で浜辺の草刈り、ごみ回収を実施しました。

①砂浜再生実験

【開催日】平成20年1月26日（土）

【場所】御前浜・香櫨園浜

【主催】地元自治会、プロジェクト参加者、兵庫県阪神南県民局

【取り組み状況】

- ・砂浜景観の再生へ向け、行政と地域住民との協働で実験を実施するとともに、実験の効果を観察するためのモニタリングを実施

草の掘り起こし実験：砂浜の草地化が問題なため、草を掘り起こした後の生える経過を観察
 砂の押し出し移動実験：波打ち際の草を取り除き、砂を海側へ押し出して、なだらかな砂浜とすることで潮風のあたる面積を拡大

②浜辺の草刈り

【開催日】平成19年9月23日（日）

【場所】御前浜・香櫨園浜

【主催】地元自治会、プロジェクト参加者、西宮市、兵庫県阪神南県民局

【取り組み状況】

- ・浜辺の草刈りを実施し、ゴミ袋150個分もの草とゴミを回収（約70人参加）

③その他

- ・毎月第一土曜日にビーチクリーニングを実施（浜脇校区子供会連絡協議会）
- ・毎朝なぎさ際のごみ拾い（香櫨園浜を美しくする会）



砂浜再生実験の様子



浜辺の草刈りの様子

刈られた草とゴミ

(9) 南港生き物育て隊アオサ取り

●野鳥が利用し、多様な生きものが生息できる湿地（干潟など）を保全するため、大量に発生するアオサ藻類の除去作業「アオサ取り」を、行政や NGO・NPO 法人と市民・企業が協力して実施しました。「アオサ取り」という体験を通して、生き物豊かな湿地の存在や海と湿地の重要性について知る機会としました。

【場所】 大阪南港野鳥園

【主催】 NPO 法人南港ウェットランドグループ、大阪市港湾局

【取り組み状況】

開催日：毎年6～7月に3・4回実施

平成19年6月17日（日）、6月30日（土）、7月1日（日）、7月29日（日）



大阪南港野鳥園でのアオサ取りの様子



(10) エコアートフェスタ大阪

●大阪市の、創造都市づくりの一環として、創造的人材の育成と、環境意識の啓発を目的として開催しました。

【開催日】平成19年11月3日（土・祝）～11日（日）

【場所】天保山ハーバービレッジ イベント広場（海遊館前）

【主催】エコアートフェスタ大阪実行委員会（事務局：大阪市港湾局）

【取り組み状況】

- ・大阪港内のごみやペットボトルを素材にしたオブジェのコンテストやエコツアーを開催。



大阪港内のごみやペットボトルを素材にしたオブジェ等



(11) 阪南港ちきりアイランド（阪南2区）人工干潟とクリーンセンター見学

●物流機能の整備、地域産業振興、環境改善のための用地整備が進む「阪南2区」において、本年度より稼働した岸和田市貝塚市クリーンセンターや海域の環境創造を目指して整備が進んでいる人工干潟の見学会を行い、港湾の取組を体験して頂きました。

【場所】 阪南2区人工干潟、岸和田市貝塚市クリーンセンター

【主体】 阪南港港湾振興連絡協議会、ちきりアイランド（阪南2区）まちづくり会、大阪府、岸和田市、貝塚市、忠岡町、（財）大阪府都市整備推進センター

【取り組み状況】

- ・都市臨海部に、みんなが親しめる干潟の再生を実験中の人工干潟及び本年4月に稼働したばかりの岸和田市貝塚市クリーンセンターの見学を実施
- ・実施日：平成19年11月21日（水）、平成19年11月30日（金）



阪南2区人工干潟



岸和田市貝塚市クリーンセンター全景



見学会の様子

(12) 神戸空港島でのウミガメ保護と環境学習（ウミガメ・エコツーリズム）

●混獲（誤って捕獲）され傷ついたウミガメを、神戸空港島の人工海浜（人工海水池）で、夏期の間、保護・飼育する試みを行いました。また、ウミガメの保護にあわせて一般の方々にウミガメの生態や海洋環境に関する学習をしていただくための活動を、「ウミガメ・エコツーリズム」と題して、実施しました。

【場所】 神戸空港島西緑地(人工海浜、人工海水池)

【主体】 神戸市、NPO 法人日本ウミガメ協議会

【取り組み状況】

- ・混獲（誤って捕獲）されたアカウミガメ6頭を神戸空港島の人工海水池で保護(平成19年7月)
- ・ウミガメの健康調査にあわせて、ウミガメ・エコツーリズム(学習会)を開催
(平成19年度に4回実施、参加者:のべ400名)
- ・保護していたウミガメは平成19年12月に外洋へ放流



学習会の様子



保護したウミガメ



ウミガメの健康調査



ウミガメの解説

(13) 尼崎運河博覧会（うんぱく）

●緑あふれる憩いの場所に生まれ変わってきた尼崎南部の運河で、ボートを集めて運河にもっと親しむ催しを企画しました。

【開催日】平成19年9月29日（土）

【場所】尼崎運河部（であい橋、北堀運河一帯）

【主催】尼崎21世紀の森づくり協議会、NPO法人尼崎21世紀の森

共催：自然と文化の森協会、尼崎南部再生研究室

協力：尼崎港管理事務所

【取り組み状況】

- ・各種の水の乗り物が集合し、e ボートでの船遊び、尼崎港探検クルーズによる運河や工場見学を企画



e ボートで船遊び



運河バス



兵庫県巡視船「さちかぜ」による
尼崎港の探検クルーズ



アクアスキッパーのデモンストレーション



3-2 大阪湾再生に関するシンポジウム等の実施

(1) 大阪湾再生シンポジウム

- 大阪湾再生の取り組みを一層推進し、市民・NPO・学識者・企業との連携や協働を拡大するため、シンポジウムを開催しました。

【日時】平成19年12月15日（日）

【場所】大阪府立国際会議場（グランキューブ大阪）

【主催】大阪湾再生推進会議（後援：瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会）

【内容】水中写真家・中村征夫氏による写真を交えた講演の他、大阪湾一帯で活動をしているNPO団体によるポスターセッション、パネルディスカッションを実施



特別講演の様子（中村氏）



水中写真を交えた講演



ポスター（日本ウミガメ協議会）

ポスター（関西大学第一中学校）



パネルディスカッションの様子



パネルディスカッションでの意見交換の様子

(2) 「大阪湾満足度評価」アンケート調査

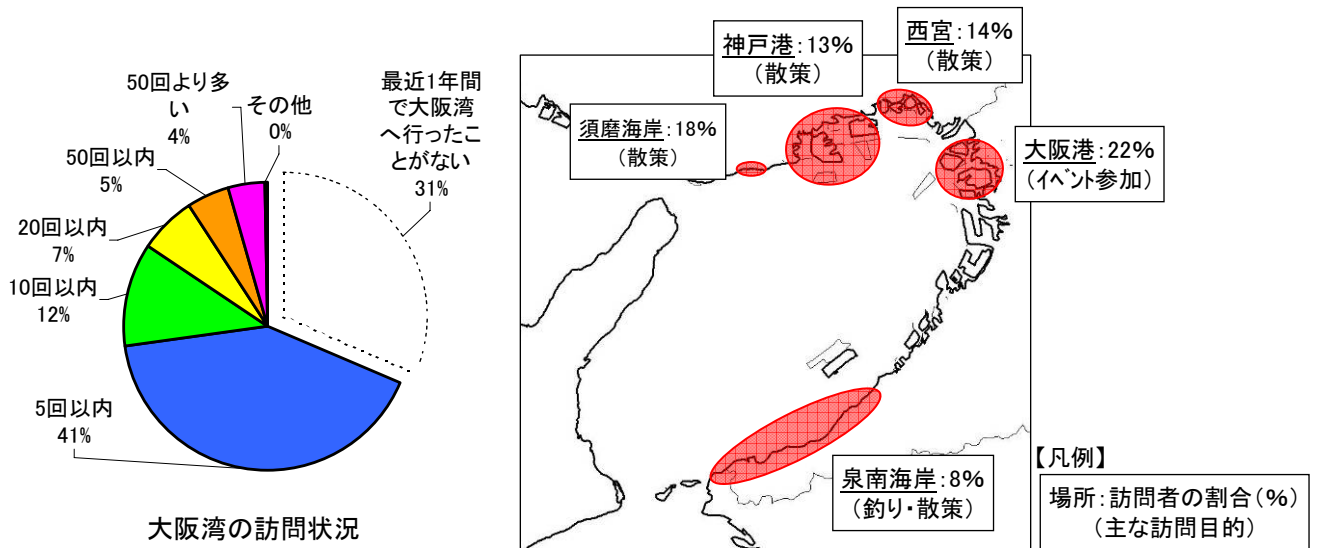
●大阪湾再生にあたり、そもそも市民が「大阪湾に対しどのようなイメージを持っているのか」を把握するために、大阪湾に対するイメージ調査を実施しました。

【実施状況】

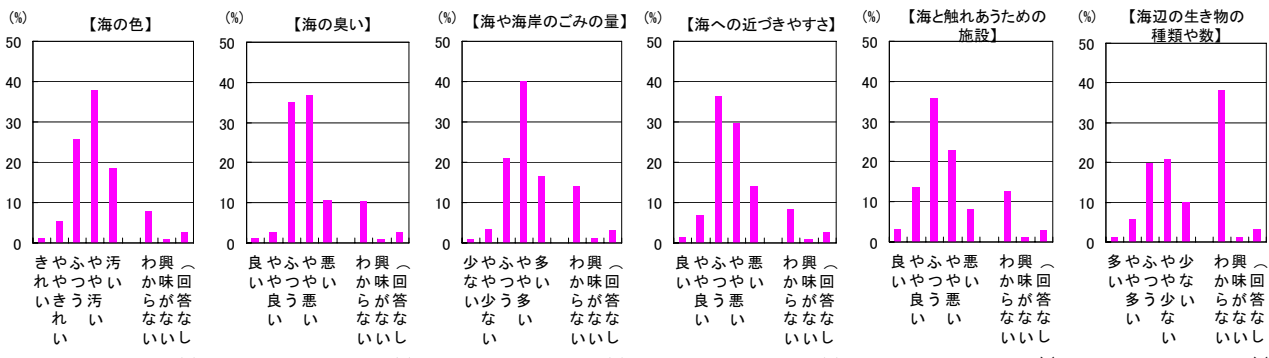
- ・調査実施機期間：平成 19 年 7 月、8 月中心
- ・対象者：大阪湾の利用者（大阪湾臨海部の親水施設への設置、大阪湾に関するイベント参加者への配付、NPO 団体・臨海部企業への配付）
- ・調査項目：1) 大阪湾の訪問状況（場所、訪問目的・回数）、2) 訪問した場所の印象*、3) 大阪湾（全体）の環境についての印象* など

※海の色、臭い、ごみの多さ、海への近づきやすさ、海の触れ合い施設設置状況、海辺の生き物の多さなど

- ・実施状況：配布数：2,107、回収数：569 →回収率：27.0%



訪問者の割合が多かった場所
(5箇所あわせた訪問者割合：75%)



大阪湾の全体の環境に対する印象

【資料：マスコミ等による報道状況】

◆平成19年度 大阪湾再生関係 報道状況（新聞等）

日付	媒体	タイトル等	名称	件数(件)
2007/5/1	読売新聞	ミナト人語り 神戸開港140年(第3回)		
2007/6/19	産経新聞	平成18年度大阪市内河川魚類生息状況調査の結果等について		
2007/6/19	毎日新聞	平成18年度大阪市内河川魚類生息状況調査の結果等について		
2007/7/1	神戸新聞	「兵庫運河 真珠貝プロジェクト」移植式		
2007/7/1	読売新聞	「兵庫運河 真珠貝プロジェクト」移植式		
2007/7/22	神戸新聞	兵庫運河で真珠生まれた(真珠業界によるPR記事)		
2007/7/27	神戸新聞	元気になってね ～アカウミガメ海水地に～		
2007/8/1	奈良新聞	水の日特集(別冊)		
2007/8/27	読売新聞	水質保全の大切さ学ぶ 大和川		
2007/8/27	奈良新聞	浅瀬や石の下探索 川の生き物に歓声 桜井・初瀬川でかっぱ教室		
2007/11/21	産経新聞	大和川にアユ再び 卵と仔魚確認 国交省「水質改善」		
2007/11/21	朝日新聞	根付いた命大和川清く アユ2カ所で産卵確認 藤井寺		
2007/11/21	読売新聞	「日本一汚い川」アユ戻る	産経新聞	2
2007/11/30	奈良新聞	家庭でできる環境対策 田原本でアクリルタワシ作製講座 具体的な方法紹介	読売新聞	6
2007/12/9	神戸新聞	ウミガメ旅立つ ～保護の6匹外洋へ放流～	朝日新聞	1
2007/12/11	神戸新聞	「兵庫運河 真珠貝プロジェクト」浜揚げ式	毎日新聞	1
2008/1/1	読売新聞	命集う海次世代へ 大阪湾再生 課題は	神戸新聞	6
2008/1/1	読売新聞	エコでいこっ！自分のため 地球のため 人工干潟魚庭の夢 漁師は海の護り人 熱い思い再生へパワー	奈良新聞	3
2008/1/20	神戸新聞	「兵庫運河 真珠貝プロジェクト」アクセサリ研修会	港湾空港タイムス	1
2008/2/1	神戸市広報紙 「広報こうべ」	市長ほっとSHOT「みんなで守り育てた真珠の輝きに感動」	神戸市広報紙 「広報こうべ」	1
2008/3/3	港湾空港タイムス	大阪湾フォーラム 西宮市で開催(3/8) 神戸技調ら	合計	21

◆平成19年度 大阪湾再生関係 報道状況（テレビ等）

日付	媒体	タイトル等	放映時間
2007/8/8	NHK	水質改善へ一斉調査	約2分
2007/8/8	読売テレビ	平成18年度大阪市内河川魚類生息状況調査の結果等について	約10分
2007/8/8	ラジオ大阪	大阪湾再生アピールポイント住民見学会のお知らせ	約3分
2007/8/9	ラジオ大阪	きんきワンダーランド	約5分
2007/8/26	奈良テレビ	県政フラッシュ(ぼくらのかっぱ教室の様子放映)	2分
2007/8/30	テレビ大阪	大阪湾再生アピールポイント住民見学会(夕方ニュース番組BIZにて)	
2007/11/21	ならドットFM	アクリルタワシの効能と作製講座参加者募集	5分
2007/11/29	奈良テレビ	県政フラッシュ(アクリルタワシ作製講座の様子放映)	2分
2007/11/30	ラジオ大阪	きんきワンダーランド	約5分
2007/12/9	サンテレビ・ ニュース「日曜夕 刊」	「兵庫運河 真珠貝プロジェクト」浜揚げ式	約1分
2008/1/10	ラジオ大阪	きんきワンダーランド	約5分
2008/2/2	奈良テレビ	情報奈良チャンネル(「水質改善に向けて」)	5分
2008/2/5	奈良テレビ	県政フラッシュ(アクリルタワシ作製講座の様子放映)	2分
2008/2/25	奈良テレビ	県政フラッシュ(生活排水対策パネル展の様子放映)	2分
合計	14		